

企業参入による取組事例 「山梨県北杜市」

1. 地域農業の状況

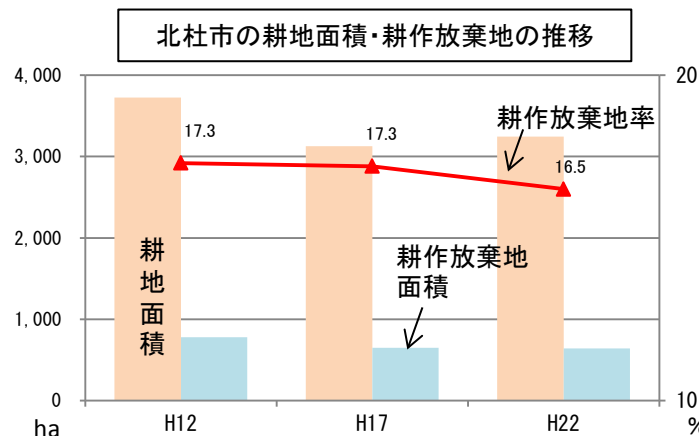
○ 北杜市は、山梨県の北東部に位置し、八ヶ岳・南アルプスなど日本の百名山に囲まれた文字通り「杜(もり)のまち」で、清らかで豊富な水資源、日本一長い日照時間など豊かな自然と資源に恵まれた地域。



○ 市内の優良農地では、高品質（5年連続で特A評価）な水稻の栽培が盛んに行われ、標高を生かしたそば、野菜、果樹などを栽培。

○ 一方、優良農地周辺における戦後の開拓農地や水に恵まれない急傾斜地等のほ場等では、養蚕業の衰退、人口減少や農業者の高齢化に伴い、耕作放棄地が発生。

○ 本件の取組農地は標高950mの平坦な台地で、かつては地域の主な産業であった養蚕のための桑畑であったが昭和50年代の養蚕の衰退に伴い、以後、長期間に渡り耕作放棄地となっていた。



2. 耕作放棄地再生利用の取組

取組主体	株式会社ハーベジファーム
再生面積	2ha(経営面積16ha)
作付作物	やまといも

地区名	須玉(すたま)地区
取組年次	平成23年～
販路	系列企業へ販売

(1) 山梨県、北杜市、農業公社の連携

- 平成22年度、山梨県は緊急雇用創出事業による「耕作放棄地を活用した企業の農業参入推進事業」を創設し、耕作放棄地であった本件農地の再生利用を目指し、山梨県・北杜市・山梨県農業振興公社の三者が連携して企画立案。
- 農地は、公社が地主から借受け企業に貸与するための利用権を設定し、平成23年度に北杜市が栽培品種の特定とマニュアル化に向けた実証栽培を実施。

(2) 企業の農外参入による耕作放棄地の活用

- 山梨県内での農業参入を検討していた飲食業の(株)フードワークスと医薬品開発支援企業の(株)シミックは、山梨県等からの提案を受けて本件の取組農地への参入を決め、平成23年に共同で農業生産法人(株)ハーベジファームを設立。
- 基盤整備は、地形・周囲の状況、参入企業の意見等を考慮して行われ、平成23年度から翌年に掛けて同社が土壌改良・施設整備を実施し、本格的な営農開始。
- 栽培作物は、実証栽培の結果を踏まえた「やまといも」を栽培。「やまといも」は自社が県内に設置した加工施設において「とろろ」に加工し、全量を系列企業(卸)に販売。

- 平成24年12月より収穫し、出荷を開始。目標経営面積は36ha。やまといもを中心にレストラン需要のある葉物野菜の栽培を考えている。
- やまといもの収穫量は年間57t。
- 地域内から職員を5名、パート職員を6名雇用。

活用した支援策

- H22 中山間地域総合整備事業・緊急雇用創出事業(国)(ほ場整備、畑灌施設、獣害防止策等)
- H23 六次産業化推進整備事業(国)(加工処理施設)
- H23～25 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金(国)(土壌改良、営農定着、農業機械・集出荷施設、経営展開)



再生した農地と「やまといも」